

# がんサバイバー2年生

丸山百合  
(高37回)

54歳の誕生日を迎える直前、乳がんが見つかりました。手術→放射線→抗がん剤→分子標的薬と治療が進む中で迎えた55歳。皆様の参考になることもあればと、体験記を綴ります。

## 治療方針の決定

乳がん確定後、驚くような治療方針の決め方が待っていました。

主治医から、治療の流れを大まかに10分ほど説明された後、いきなり、丸山さんはどうしますか?と聞かれたのです。手術と抗がん剤のどちらを先にするか、手術は温存+放射線か全摘か、などを今自分で決めろと。どちらでもデータ的に予後の違いはないとの説明を受けたばかりですが、そういう方針は医師が決めるものと思い込んでいたので、絶句しました。こんな説明だけで命に関わ



●まるやま・ゆり  
旧姓・桐渕。伊賀良中出身。慶應義塾大学理工学部卒。日本IBMでSEとして勤務。育児退職後、共立女子大学文芸学部(DTP・Web)・立教女学院中学高等学校(数学)等で非常勤講師。治療のため退職。

ることをすぐ選ぶなんて無理……と。しかし決断を持ち越せば、治療はさらに延びてしまうとのことで、やけくそで決めました。

予後の差がないケースだったからでしょうし、その医師が特殊だったのかもしれませんのがん治療では、自己決断を求められることもあるようです。最近はありがたいことに、医師による正確な情報やサバイバーによる経験談がネット上にたくさんあって、情報取得が容易です。この日以来、意識的に自分で学んでいます。

## 手術・放射線治療・抗がん剤・分子標的薬

2か月後に手術。幸いリンパへの転移がないこともあり、中検査で確認され、入院3日で退院。術後は痛みが驚くほど少なく、退院してすぐ家事も散歩もできました。

ひと月傷を癒してから放射線治療。身体に赤いインク

で目安線を描かれ、土日以外毎日通つて5分ほどの照射。全25回。照射は何ともないのですが、日を追つてその箇所の皮膚が赤味を帯び、酷い日焼け後のようなかゆみや痛みが出ます。処方薬と共に、摩擦の少ないシームレスシャツや、冷感シャツを裏返しに着るなど工夫しました。続いて抗がん剤。通院で点滴約2時間を3週ごと計4回。事前に院内の薬剤師さんから副作用の説明を受け、対策として手足を冷やすものを準備して臨みました。吐き気はなく済みましたか、脱毛・手足の痺れなど様々な体調不良が起きました。手術後も以前と変わらず過ごさせていたのが、抗がん剤によつて、「病人」になりました。

手術でがん細胞が取り除かれた後の抗がん剤は、検査でも見えない微小ながんが体内に運ばれている「かもしれない」ものをたたくことでの再発予防が目的で、効果は過去のデータを信じるのみです。がん細胞だけでなく正常な細胞にも作用するため、多くの副作用が出ます。存在が不確かな相手と戦うために明らかに体を壊す(それが元に戻らないこともある)、辛い治療法など実感しました。体調不安から途中でやめようかと悩みましたが、3週間サイクルの不調の出方が同じであつたことから徐々に対処に慣れ樂になり、無事に完遂できました。

分子標的薬は、がん細胞に特異的に発現する分子のみ

をターゲットとするため、抗がん剤のような副作用がない夢のような薬で、今は病前と変わらず過ごせています。これも通院での点滴で3週間ごとに1年。私のがんタイプは、進行が早く、かつては予後が悪かったものが、二十数年前に開発されたこの薬によつて、治療成績が劇的に良くなつたとのことです。開発してくれた方々、臨床試験に関わつてくださつた先輩患者の方々に感謝するばかりです。がんの治療薬は今も日々進歩しています。ありがとうございます。

### がんサバイバーとして



愛犬(コーギー)との朝夕の多摩川周辺散歩で体力作り

術後1年目の検査は無事クリアしました。今後は半年ごとに再発の検査が続きます。常に再発の不安はつきまといますが、この先もサバイバーとしての進級を無事に重ねらされることを祈りつつ、「当たり前の日常」を充実させていきたいと思つております。